

## 「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」における統合場所についての考え方

「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」における統合場所は、「3 行動指針」にあるように「子どものことを第一に考え」、選定することが重要と考えています。

統合場所は、この行動指針に基づき、対象校などについての事前調査を行い、個別プランごとに選定理由の考え方を整理すべきものと考えています。

### (参考) ナゴヤ 子どもいきいき 学校づくり計画

#### I ナゴヤ 子どもいきいき 学校づくり計画について

##### 3 行動指針

目指すべき姿を実現するにあたっての行動指針を以下の通りとします。

- ① 子どものことを第一に考え、教育委員会が主体的に望ましい学校規模の確保に取り組みます。
- ② 学校ごとの具体的なプランに基づき、目指すべき姿を早期に実現します。
- ③ 望ましい学校規模の確保を契機に、教育・学校運営面、施設面それぞれにおいて教育環境の向上を図ります。

## 高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プランにおける統合場所について

別紙（「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」における統合場所についての考え方）に基づき、高坂小学校・しまだ小学校の統合に関する個別プランにおける統合場所の「選定理由」と選定の際に「参考とした主な項目」は、次の通りです。

### ○選定理由

区分	高坂小学校	しまだ小学校
通学距離	しまだ学区（高島2丁目）から 最長約2.1 km	高坂学区（久方三丁目）から 最長約1.7 km
	起伏のある地域であることに留意する必要がある。	
敷地面積	12,396 m <sup>2</sup>	16,579 m <sup>2</sup>
	しまだ小学校の方が、約34%広い。	

（参考）「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年1月27日  
文部科学省）抜すい

#### 2章 適正規模・適正配置について

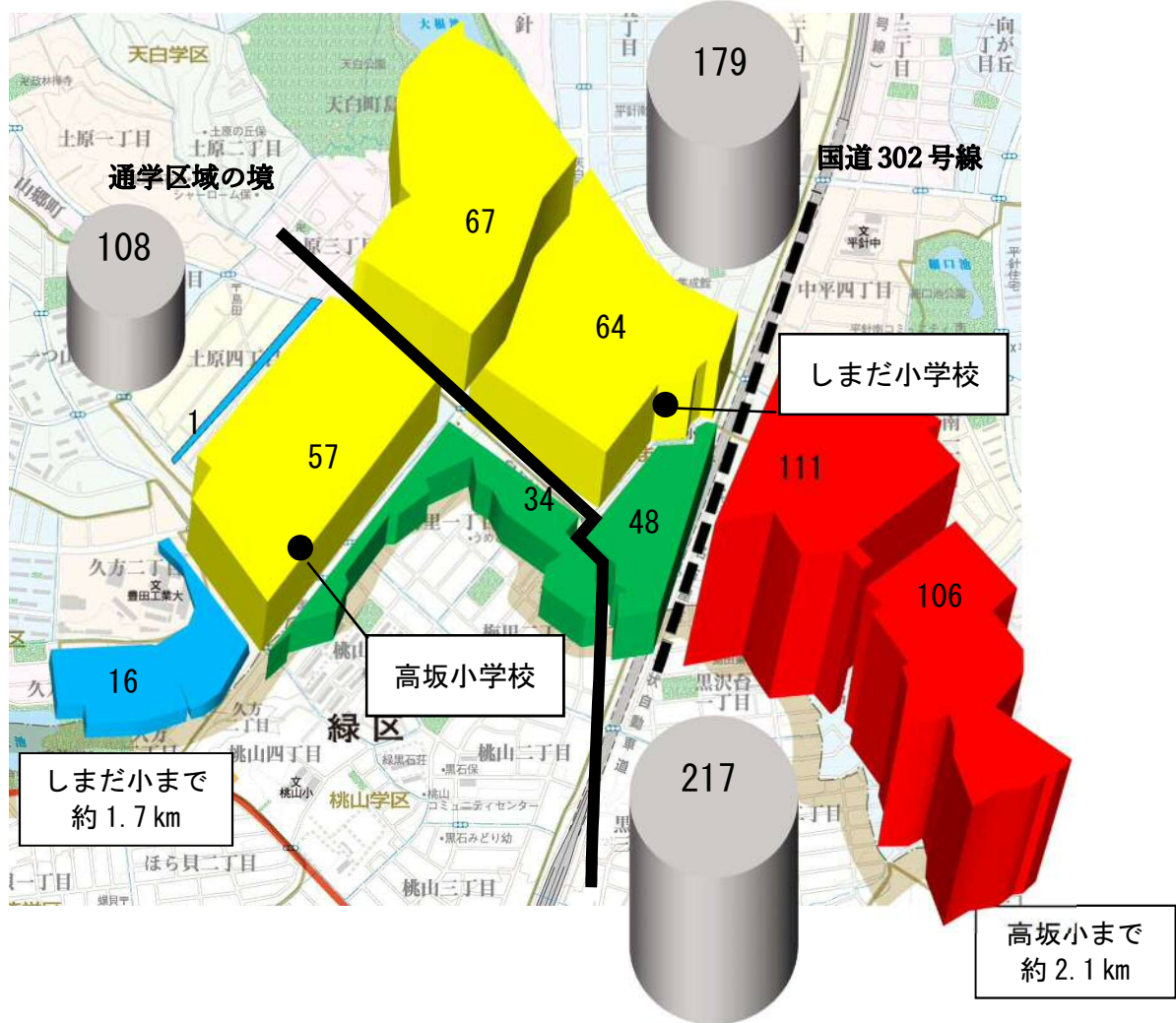
##### (2) 学校の適正配置（通学条件）

○学校の配置に当たっては、児童生徒の通学条件を考慮することが必要です。学校統合を行うことは、児童生徒の通学距離の延長に伴い教育条件を不利にする可能性もあるため、学校の位置や学区の決定等に当たっては、児童生徒の負担面や安全面などに配慮し、地域の実態を踏まえた適切な通学条件や通学手段が確保されるようにする必要があります。

### ○参考とした主な項目

区分	高坂小学校	しまだ小学校
子どもの状況	別紙（「高坂小学校及びしまだ小学校の通学区域における児童の居住分布」）の通り	
学校敷地の状況	・学校敷地の一部に高低差（2段造成）がある。	・学校敷地の一部に高低差（3段造成）、液状化発生の可能性が高いエリアなどがある。

(参考) 高坂小学校としまだ小学校の通学区域における児童の居住分布



【児童数の分布】

